



経営革新

持続可能な成長のススメ

⑥

新日本テック（大阪は経営者仲間に勧めら市鶴見区、和泉康夫社長、06・6911・1183）は、金型などの精密加工を手がける。2008年に初めて大阪府の経営革新計画に挑戦し、これまでに3度利用した。17年には府より「経営革新計画達成企業」として証書を交付され、熱関係部品の製造など精密加工以外の分野にも活躍の幅を広げる。資金調達も重要な要素だが、あくまで事業領域の拡大が目的だ。経営革新計画の利用

達成を繰り返す

ただ、指導通りに計画を立てられても、期限内に計画通りの数値を達成するには困難を伴う。しかし、だから

新日本テック



新日本テックは金型など金属の精密加工を手がける。金属加工作業に携わる若手社員

計画をマイルストーンに

こそ「いいプレッシャーになり、目標達成を繰り返すことで経営改善できる」（和泉社長）。同社では経営革新承認された極薄のフッ

戦略的に事業領域拡大

素被膜「SNフッ素コート」だ。同商品は100万円以下の極薄のフッ素被膜を金属やガラス、プラスチックなどの表面に形成できる。焼成温度も98度以下と従来より低く、コティングできる素材の幅が広い。金型加工の幅が広い。金型加工が主力の同社には未知の事業だったが、新事業を進めることで製品の幅が広がり、本業の受注も増えたという。17年には金型の熱だまりを軽減する部品「遮熱ハット」を申請。これまで熱関係部品の加工は経験がなかつたが、SNフッ素コート技術を生かし開発にこぎつけた。遮熱ハットの拡販を通じ

困りごと解決

（水・金曜日に掲載）